

愛知県知立市農業委員会（知立市農地情報バンク制度の取り組み）

【令和4年度】

【農業委員会の体制】（令和2年7月20日任期開始 新制度移行後2期目）

農業委員14名、農地利用最適化推進委員4名、事務局職員3名

1 地区の特徴・状況、課題

○知立市は人口は約7万人で、愛知県のほぼ中央に位置し、古くは東海道の宿場町として発展し、現在でも幹線道路が通り、鉄道で、名古屋まで約20分とアクセスがよい。農地が4分の1を占めているものの、市街化調整区域内の畑については農業の担い手がおらず、後継者不足により、今後は休耕地が増加していくことが予想される。これらの農地を引き継いでいくためには、新規就農者を確保していく必要があり、耕作できなくなった農地をどのように結び付けていくか課題となっている。

2 課題解決に向けた活動（農地利用の最適化の推進の取組と工夫）

○豊川市の事例を視察し、農業を新たに始めようとする人を支援するため、新規参入希望者は200㎡以上1000㎡未満から、新規就農希望者は1000㎡以上2000㎡未満で、農地法の下限面積（2000㎡）未満でも利用権設定できるように制度化した。また、農業委員会の意向調査で貸し付け意向の遊休農地等を市農地バンクに積極的に登録を勧め、出し手と受け手をマッチングしている。

3 活動の成果

○令和4年4月からこの制度を始め、これまでに4筆の畑の登録があった。内1件は、マッチングが合意され貸借が成立した。また、1件は現在交渉中となっている。これまでなかなか畑の貸借が進まなかったが、窓口にも問い合わせが数件あり好感触である。しかし、現状が草が生えているなど、すぐに耕作できない場合もあり、その対応が課題となっている。

